

議 事 録

会議の名称	令和7年度第1回岩倉市行政評価委員会
開催日時	令和7年5月27日(火) 午前9時から正午まで
開催場所	市役所7階 第2・3委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	久保田市長 出席委員：千頭委員(委員長)、小松委員(副委員長)、堀井委員、大橋委員、山中委員、村上委員、三輪委員、長坂委員、服部委員、吉田委員 欠席委員：なし 事務局：中村総務部長、西山専門監、井手上企画財政課長、宇佐見企画政策グループ長、金森主任
会議の議題	1 開会 2 委員の委嘱 3 市長あいさつ 4 委員自己紹介 5 委員長及び副委員長の選出 6 委員長及び副委員長あいさつ 7 議事 (1) 岩倉市行政評価委員会の進め方について (2) 第2期岩倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗の評価について (3) その他
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
会議に提出された資料の名称	会議次第 資料1：岩倉市行政評価委員会委員名簿 資料2：岩倉市行政評価委員会条例 資料3：岩倉市行政評価委員会の進め方について 資料4：第2期岩倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 資料5：「第2期岩倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の主旨と進捗評価について 資料6：総合戦略基本目標評価シート(基本目標1～4) 資料7：総合戦略基本目標実績まとめ 机上配布資料：本市における人口の動き(R2～R7)
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	議事録作成者 金森

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

2 委員の委嘱

市長より各委員へ委嘱状を手交

3 市長あいさつ

4 委員自己紹介

各委員より自己紹介

事務局自己紹介

5 委員長及び副委員長の選出

事務局から委員長には千頭委員を、副委員長には小松委員を推薦し、満場一致で委員長を千頭委員に、副委員長を小松委員に選出

6 委員長及び副委員長あいさつ

千頭委員長よりあいさつ

小松副委員長よりあいさつ

7 議事

（1）岩倉市行政評価委員会の進め方について

【資料3】に基づき、宇佐見グループ長から説明

委員長：疑問点等、意見はあるか。

一同：なし

（2）第2期岩倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗の評価について

【資料4、資料5、資料6、資料7、机上配布資料】を基に宇佐見グループ長から総合戦略の趣旨と進捗評価、本市における人口の動きについて説明。

委員長：意見等があれば挙手でお願いしたい。

委員：全体的な基本数値が%で示されている。分母分子は分からないか。また、人口の動態の中で持ち家、持ち家以外といった属性の把握はしているか。

事務局：市民意向調査については5年に1度、外国人を含めた無作為抽出の4,000人を対象として実施している。市民アンケートについては総合計画等の指標の進捗状況を把握するため、2,000人を対象として実施している。分野別のは別途アンケートを取っているものもある。

委員長：分母は回答した人、分子は指標の説明にあった回答をした人ということである。

事務局：直近の市民意向調査は1,909人に回答していただき、回答率は47.7%であった。

委員：要介護3～5の認定率はどうか。

委員長：分母は75歳以上の人、分子は要介護3～5に認定された人ということである。

委員：もう少し早めに資料をいただき、周りの人の意見を聞く時間が取れば、もっと有意義な意見ができると思う。時間的な余裕がほしい。

事務局：資料の送付については、早めに送付できるよう努力する。

事務局：持ち家の比率は、国で5年に1度行われる住宅土地統計調査で出ている。数値的な比較は統計的に取れるが、転入等の手続きでは賃貸か持ち家かどうかは分からない。細かい分析は難しいというところが実情である。

【資料6－基本目標1、資料7－基本目標1】を基に宇佐見グループ長から説明

委員長：意見等があれば挙手でお願いしたい。

委員：五条川健幸ロードについて、ウォーキングやジョギングで活用されている市民が多いと思うが、市の東側を五条川が流れているので、市の西側に住んでいる市民からは身近ではないような気がしている。岩倉市のメイン施策としての五条川健幸ロードであれば、西側に住んでいる市民にとっても活用しやすい仕組みができると良い。一時的にでも駐車できる場所があり、そこに車を停めて散歩できるようなことがあるとよいと思う。

委員：まちの成り立ちとして、古くは西側を整理して、最近では東側を整備しているような感じがする。西側は住宅と企業が多いが、五条川健幸ロードについては、大地町あたりの住民は五条川に歩いて行っている人もある程度はいると思う。西側に何かメインとなるものがあればよいかと思う。大矢公園や中央公園等があり、公園はある程度充実していると感じる。史跡公園ではラジオ体操が行われており、地域での活用はなされている。少しずつ進めていっていると感じており、このまま進めていってほしい。地域間での横の連携が増してこればよいと思う。

事務局：健幸ロードについては延伸を検討している。ハード整備になるのですぐには進められないが、人を呼び込むような仕掛けをつくり、アクセスのしやすさや訪れるためのモチベーションづくりも併せて検討が必要と考える。地域での体操等は健康づくりサポーター等もやっているが、地域間で横に広げていってもらえると、一番よいと考える。

委員：一人当たりの都市公園面積については、愛知県平均より少ない。岩倉市は、規模は小さいが公園が多く、遊ばせやすいイメージがあったので、意外だった。他の自治体と比べ、草取りなどの整備はされているように感じる。市民がこぞって集まれる代表的な公園があるとよいと考える。

委員長：市域が狭く、まとまった大きな公園がつかれないため、面積は少なくなっているのではないかと思う。法に規定されている都市公園以外にも五条川など市民が利用できるような公共の場はあると思う。

委員：岩倉団地について、高層階に住んでいる人の外出控えについては懸念がある。民生委員の数は足りているか。一人暮らしの人への対策についても確認したい。

事務局：岩倉団地については一部、エレベーターを設置していたりもする。行政と団地の自治会、民生委員と連携を取りながら見守り活動をしているところである。民生委員は後継者探しに苦慮しているとは聞いており、定数は76人だが、1割ぐらいの欠員がある。一人暮らしの高齢者への対策については力を入れており、地域包括支援センターもある。地域で得た情報を持ち寄って情報共有を図る会議などもあるが、将来的にも大きな課題であると認識している。

委員：各区における民生委員の実情については格差が出てきていると感じる。世帯数の差があるため、どうしても人数に差が出てしまう。個人情報保護の観点もあるが、民生委員が少ない地区やいない地区について、民生委員でない者が部分的にでもサポートできるような制度があるとよいと感じている。

委員長：大事な意見であり、市民評価として記載したい。

【資料6－基本目標2、資料7－基本目標2】を基に宇佐見グループ長から説明

委員長：意見等があれば挙手をお願いしたい。

委員：一時期、名古屋市に住んでいた。家を建てたいと思ったが、土地が名古屋市では高かった。周りからは岩倉市が住みよいまちだと言われており、過ごしやすいとは感じている。児童館について幼児は保護者がいないと利用できない。姉と弟、兄弟でも利用できるようになればよいと思う。子どもを産んでほしいと国を含めた行政側が言うが、環境がまだまだ整っていないと感じる。少額でもよいので、お母さんが安心して岩倉市で働けるような場所があると安心して子どもを産むことができると思う。ファミリー・サポート・センターは利用料が高いと感じる。子どもがいて働けない人も預けたいが、利用料が高いと結局無理してでも自分で子どもの世話をすることになってしまう。無償とはいかないと思うが、アンケートなどで利用しやすい料金を設定してはどうか。児童館、みどりの家、くすのきの家については子どもが集合場所等にしており、利用しやすいと感じる。市民団体じゃないと使えないと言われてたり、利用目的を聞かれることもあったりするので、親が使いたいときに使えないことがある。せっかくなので活用したいと思っている。また、産婦人科が1つしかないのも子どもを産む際に不安がある。助産院も岩倉市にはないと思うが、増える見込みはないのか。

委員：保育園、幼稚園の子に対しての発達支援について気になる。一宮市の児童発達支援センターは利用待ちがあるような状況である。ニーズが高いと考えられるが、岩倉市ではどのような制度があるのか。

事務局：児童館の利用については、色々な意見があると思うが、実際に働いている子育て世代の意見も大切であるため、可能な範囲で検討していきたい。岩倉市に住む場所、働く場所をセットで整えた方がよいという意見と、通勤がしやすく利便性が高いまちであることを売り出していく方がよいという両方の意見がある。近隣市町も含めて通勤しやすいという利便性の高さは岩倉市が既にもっている良いところである。今後も事業所誘致の取組は継続していくため、雇用も創出できていくと考える。それが良い方向に作用して、定住する人が増えるとよいと考える。ファミリーサポートの利用料については、意見を担当課に伝えさせてい

ただ。児童館の利用については、学童保育が学校内に移っているため、利用状況などを考慮しながら児童館をどうしていくかは今後検討していく。産婦人科については、岩倉市には市民病院がなく、大きな病院というと江南厚生病院や小牧市民病院へ市民の方は通院していると思うが、新しく産婦人科や助産院を増やすというのは市としてなかなか難しい。各病院や医師会と連携体制は構築しており、産婦人科が少ないことをマイナスと感じさせないような環境について整えていきたいと思う。

事務局：発達支援については、子どもの定期健診等で気になることがあれば保健センターから情報を共有するように努めている。また、気になるケースを把握した場合は、市の内部だけでなく、児童相談センターや医療機関などに共有する体制は整えている。また、件数については把握していないが、児童発達支援センターの利用は一定程度あると聞いている。

副委員長：市街化区域の拡大については、人口減少社会において市街化区域を拡大すると住宅地（インフラ）が増えてしまい、サステナブルではないと感じているところ。今後は縮小していくべきではないかと思う。空き家が問題になっているが、空き家を建て替えていけるような制度を創出する必要がある。できなかったこととして市街化区域の拡大との記載があるが、方針を見直す時期に来ているかもしれない。意見として述べさせていただく。

委員長：大事な指摘だと思う。現在、都市マスタープランの見直しをされているところだと思うので、その場でそういった意見を伝えてもらえればと思う。

【資料6－基本目標3、資料7－基本目標3】を基に宇佐見グループ長から説明

委員長：意見等があれば挙手でお願いしたい。

委員：「わくワークいわくら」は保護者としても良い事業だと思った。子どもにとっては目に見えるものしか意識をしない。岩倉市でもいろいろな仕事があり、社会を支えているということを意識づけることは大事だと思う。のんびり洗いを体験する機会はあっても、仕事として体験する機会がない。ふれ愛まつりの産業コーナーにも行き、先日、小牧産業フェスタにも行ったが、そういった仕事を体験する機会や仕事を知る機会がもっと増えるとよりよいと思う。

委員：関係人口の増加を図っていくと記載があるが、この部分に関しては外から持ってくるという意味でターゲットを絞ることができており、よいと感じる。基本的なこととして、全体的に目標値の見直しについて、既に達成しているものを修正したりはしないのか。

事務局：わくワークについて好評をいただき、ありがたい。大きなねらいとして成果があったと思う。まつりの中での仕事を体験する機会や知る機会の充実については意見を担当課に共有していく。

事務局：目標値の見直しについては、総合計画を5年で見直すということになっているが、総合戦略については目標値を見直すプロセスはない。第3期では指標の設定と修正を行う。戦略の評価方法についてはどういったものがよいのか、ご意見をいただきながら検討していきたい。

委員長：統計調査など、5年に1回などの定期的な数値しか取れないものもある。そういったものも含めて検討していく必要がある。

【資料6－基本目標4、資料7－基本目標4】を基に宇佐見グループ長から説明

委員長：意見等があれば挙手でお願いしたい。

委員：行政区加入率が低下傾向ということだが、区費の高い低いがある。住んでから知る人が大半であると思う。事前に知ることはできないのか。情報をオープンにしてほしいと考える。

事務局：区費については行政区ごとに様々な事情があると思う。担当課に意見を伝えさせていただく。

委員：総合防災訓練は誰が主催なのか。

事務局：総合防災訓練は毎年、開催する小学校を変えて市が主催で行政区や自主防災会の協力を得て実施している。開催する小学校の近くの行政区から参加がある。行政区や自主防災会が自主的に行う防災訓練もある。職員や消防署員が協力して行っている場合もある。

委員：何年かに一回は総合防災訓練を実施する機会があるということか。近年、自分の住んでいる地区で防災訓練が開催されたという記憶がない。総合防災訓練をいつ、どこでやるか？という情報が公開されていない気がする。

委員：消防団等のなり手不足も関連した課題としてある。

委員長：他に意見はないか。

委員：指標実績として%等が示されているが、例えば前半で話の出た、愛知県における一人当たりの都市公園面積など、他の比較できる数値があると見やすいと考える。

委員長：愛知県の数値など出せるものもあるかもしれない。アンケート結果についてはアンケートの取り方が異なるため、難しいと考える。

委員：次世代自動車への件数補助についてどのくらいあったか？スマートICを降りた後に新たに事業を行うような計画はあるのか。

事務局：令和5年度実績だが、電気自動車は20件、PHVは7件、燃料自動車はなし。

事務局：スマートICについてはできあがった後にどうまちづくりをするかが大事であるため、まだ具体的ではないが、今後検討していく。

委員長：本日は以上とする。

(3) その他

次回7月17日(木)午前9時～ 場所は第2・3委員会室で行う。